

飼料用とうもろこしの根腐病徴の写真について

ここ数年問題となっているとうもろこしの根腐病について、病徴の典型的な写真を紹介します。これらの写真を品種比較試験での罹病程度の評価や生産者の圃場での予察調査実施の際に参考にして頂きたいと思います。

症例 1



根腐病発生圃場の写真

これは確定診断された圃場ではないが、一部の個体で、典型的な雌穂下垂、茎葉の凋れ症状が出ている。(2013. 8. 29)



雌穂下垂の他、葉が枯れ上がっている。ここでは黄色（薄茶色）に枯れ上がっているように見えるが、これは他の葉枯れ性病害でもあり得る。



左が健全葉、右が罹病葉。罹病葉は茶色く刈れている部分もあるが、それ以外の部分も緑色が薄くなって、凋れてきていることが判る。これが根腐病の特徴。

症例 2



写真A 根腐れ病罹病個体。
小さくて見づらいが、雌穂の節まで枯れ上がりが進んでいる。(2013.9.3)



左の個体の雌穂付近。はっきりと萎凋症状がみられる。



雌穂上部の茎も健全
個体と比べるとしわ
が目立つ。



最上位葉もよく見るとシワが入っており、色が抜け始めているのがわかる。

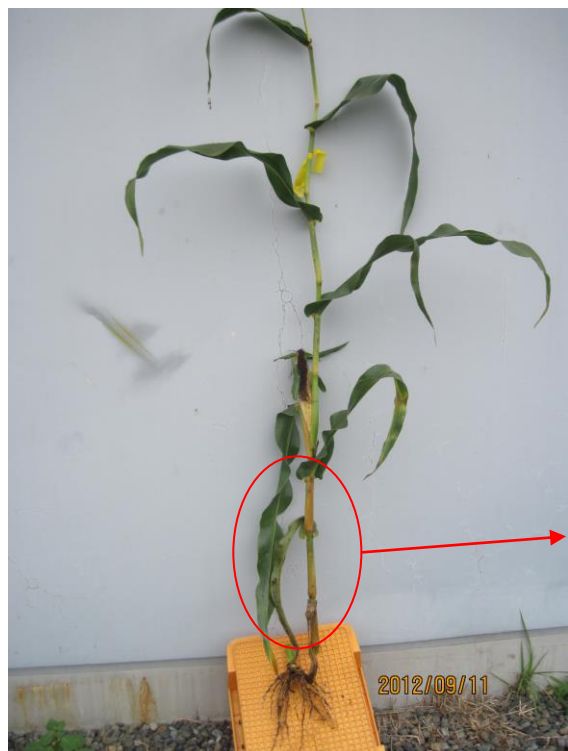


上の写真の個体の刈り株縦割り写真。
基部がやや濃い褐変。第一節までの間は飴色に褐変が進んでいる。



写真E 左の刈り株を地際5センチで切って上から見たところ。維管束部から病徴が進行し、全体に飴色に変色していることが判る。

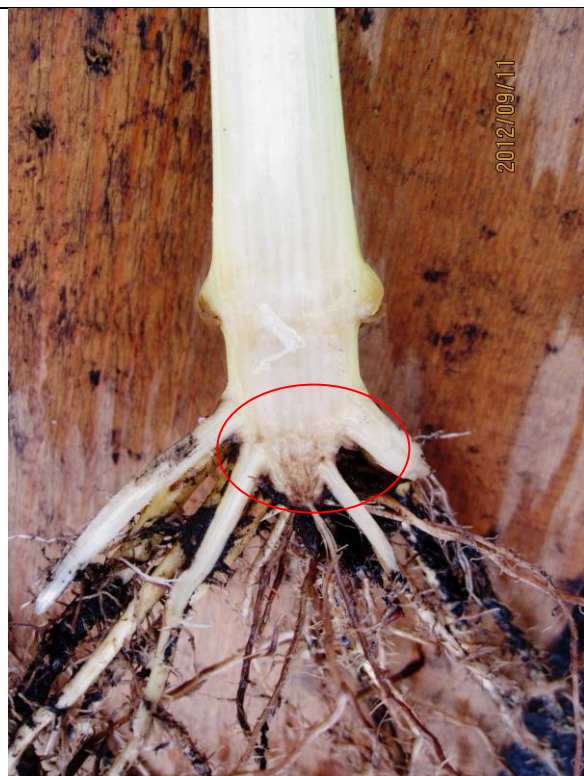
黄熟期頃まではこの程度の褐変で空洞化を伴わないケースが多いと推測される。



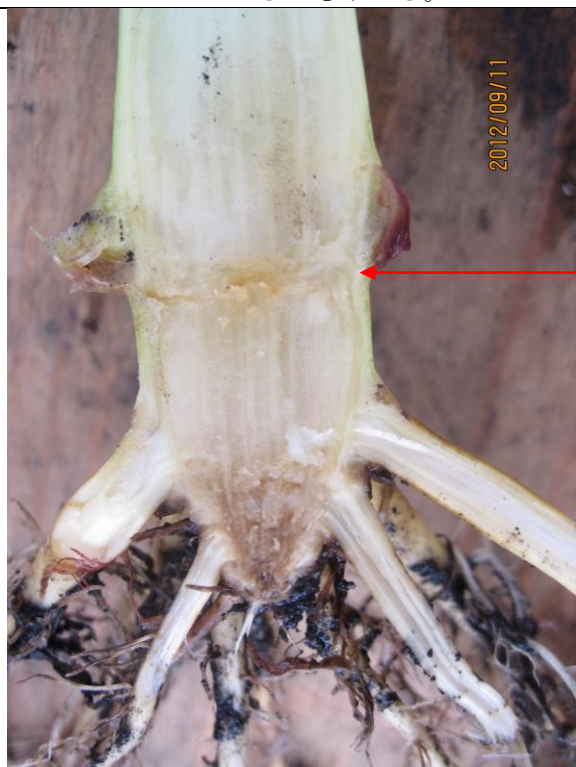
雌穂より下の葉が萎凋し垂れ下がっている。



左の写真を拡大したもの。節の上の茎がしなびてシワがよっているのもみえる。



茎基部の縦割り断面。基部と根の一部が褐変している。



左の断面を拡大したもの。節の上のほうも褐変しているのが判る。



同じ個体の茎地上から10cmのところの横断面。維管束まわりから褐変が始まり、空洞化も進んでいることが判る。

3. まぎらわしい事例



雌穂のみがやや下垂している個体。葉や茎の凋れは認められない。



この個体は茎断面にも根腐症状はなく、根腐病ではないと診断された。

4. フザリウム茎腐病の場合



下から第2、3節あたり（雌穂より下）の茎断面に写真のような赤く染まった部分が認められたら、フザリウム茎腐病の可能性があります。お近くの防除所で鑑定を依頼して下さい。